

井沢のたてわら様 (井沢)

青野川が武庫川へ合流しているあたりを井沢と言います。この村は水の便が良かったのですが、水つき（洪水）や日焼け（水不足）に繰り返し悩まされてきました。二つの川にはさまれているせいで水つきになりやすく、反対に日照りが続くと川の水が少なくなり、田んぼに回す水がなくなつて稲が枯れてしまうのです。

ある年のこと、何日も何日も雨が降り続きました。いっこうに雨が止む気配がありません。降り続いた雨で川は水かさが増し、とうとう青野川の堤防が切れてしまいました。

あふれ出した水はものすごい勢いで、田んぼや民家はみるみるうちに水の中です。井沢村は一面、水つきになってしまったのです。

何日かしてようやく水が引いた時、ふしぎなことがありました。水が引いた後に、ぼつんと藁で編んだ「たて」が残っていたのです。おそるおそる中をのぞいてみた村人がさげびました。

「なんと、小さな神様がおられる。」

「ほんに、たての中に神様がおられるとは……。」

「ありがたや。ありがたや。」

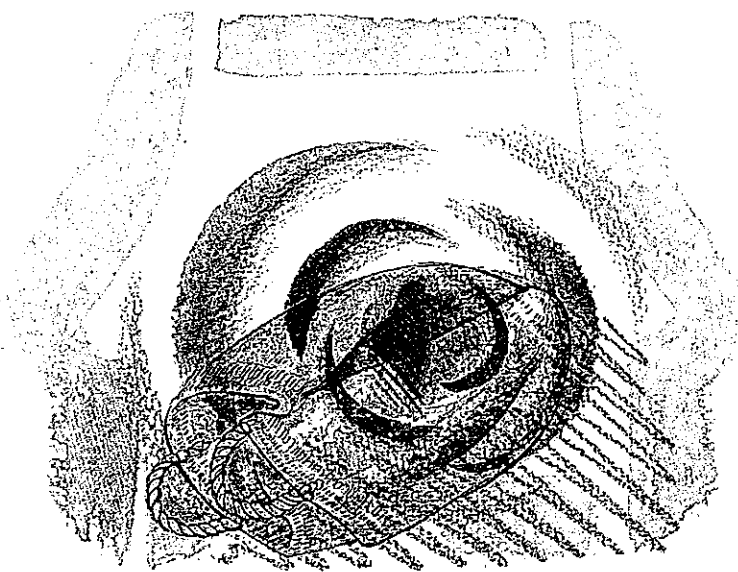
村人たちは、びつくり仰天し、たいそうありがたがりました。

そこで、わらでできたたての中におられた神さまであることから「たてわら様」と呼び、村を守ってくださる氏神様として、その場所にお社を建ててお参りするようになりました。

村人たちは日照りや水つきが起るたびに、たてわら様をお願いしました。

日照りが続くと、

「よい雨もろたら、お宮をきれ



いにして、砂を馬場に入れます。」

とお願いしました。

村人が期待して待っていて、雨が降ればよし、降らないときはもう一度お願いします。

「よい雨もろたら、子どもの相撲すまして、弁当あまして、おなぐさめします。」

ここまで言われると、さすがのたてわら様も雨を降らせないわけにはいかなかったのでしょう。本当に雨が降って願いをかなえてくれたということでした。

ところが大雨が降ると、たてわら様のお社が水につかっ
てしまいます。村人たちは、たてわら様が水のつきやすい
低いところにおられるのは良くないのではないか、と思う
ようになり、みんなで相談しました。

「これではわしらが神様を見下ろしているようじゃ。氏
神様は少しでも高いところから、村の人たちを見守るよ
うにしておられるものじゃ。」

「わしらの氏神様も高い所にお移ししよう。」
話がまとまり、山の上にお移ししたのでした。

「これで安心、安心。」

「氏神様によいことをした。」

と村人たちは喜び、安心して田んぼ仕事にも精を出したの
でした。

ところが、どうしたことでしょう。

この出来事を境に、村に恐ろしい病気が流行はやるようにな
りました。その疫病えきびょうは次々に村人を襲おそい、とどまる様子が
なかったのです。

思いあまつた村人たちが占いをたててみたところ、占い
師の口からでたのは思いもかけないことばでした。

「たてわら様がさびしがっておられるのじゃ。」

「元の場所に戻して欲しいとおっしゃっている。」

それを聞いた村人たちは、あれこれ相談の上、以前より
も立派なお社を建てて元の場所に大切にまつることにした
のでした。そうするとたちまちのうちに疫病は治まり、二
度と流行ることはなかったということでした。

その後、この井沢のたてわら様は、氏神かみ春日神社かすがじんじやとし
て人々に大切にまつられ、村人たちを見守っているという
ことです。